

令和3年度 学校自己評価表 米子松蔭高等学校

学校教育目標 「社会で真に役立つ実践的な人材の育成」	
①	自主自立の精神の涵養 責任と義務を尊重しつつ、自ら進んで目標に向かって努力する精神を養う。
②	人間性の陶冶 規律を守るとともに、人の苦しみや悲しみを正しく理解し、適切な行動のできる豊かで調和のとれた健全な人格の育成をめざす。
③	勤労を尊重する精神の育成 勤労を尊重する精神を養い、社会に貢献しようとする意欲を育成する。
④	進路指導の充実 生徒の興味・適性・能力を尊重し、適切な進路の決定ができるよう指導の充実を図る。
⑤	学習指導の充実 わかりやすい授業を心がけ、生徒の適性に合った指導に努める。
⑥	生活指導の充実 生活面の指導を大切に、正しい服装容儀、規律ある生活態度で生きる姿勢を育成する。
⑦	部活動の充実 顧問と生徒が目標に向かって共に努力してゆく中で、協調性・責任感・忍耐力を養う。

本年度の重点目標
建学の精神に基づき、これからの社会が必要とする人材の育成に努める。広い視野と知見を持ち、多様な価値観の中から、主体的に新しいものを創造していくことのできる力の育成を重点目標とする。

評価について A 達成できた B 概ね達成できた C やや不十分な点あり D かなり改善の余地あり E 全く不十分 () 評価せずまたは 評価できず

学年分掌	令和2年度末の状況	令和3年度の目標	具体的方策	中間評価	中間評価に対する改善点	最終評価	目標の達成状況	次年度引継事項・改善策など
教務部	<ul style="list-style-type: none"> (教務) 進みつつあるICT活用は、わかりやすい授業や双方向型の授業を実現させる有効なツールとなった。学習方法が多様になる中で、指導方法についての情報共有が学習指導の充実につながっている。また、昨年度は全校や学年を単位として活動する機会が減少したが、学校行事は生徒の学校生活に秩序と変化を与える役目を果たした。 (図書) 情報の収集、活用の仕方についての授業支援を行ったことで、図書は読書だけでなく、多様な場面で活用できるということを広げることができた。様々なテーマで情報を探しに訪れ、資料相談を利用する生徒が多く見られた。「読みたい気持ち」、「学びたい気持ち」を応援する場所であるということを常に呼びかけ、生徒・教職員の利用増加を目指したい。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習指導の充実を図る。 授業時間の確保に努める。 学校行事の円滑な運営に努める。 豊かな蔵書構築に努め、情報活用能力を育む図書館づくりに努める。 授業支援のさらなる充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 相互授業見学を継続的に実施する。生徒による授業評価を年2回実施する。 月間・週間行事の検討・計画を行う。日課の調整や変更を迅速に行う。 前年度までの運営を改善しながら、新しい様式にも臨機応変に対応する。 さまざまな資料、情報に触れることのできる豊かな蔵書構築に努め、生徒の「読む」「調べる」活動の充実を図る。生徒が図書館の資料とサービスを積極的に利用し、自身で情報を収集し、活用できるように導く。 様々な機関と連携して、生徒、教職員に対して豊富な資料提供を行う。丁寧な資料相談を基本とし、授業担当者や連携して生徒の日々の学習を支援する。授業に関連した内容の図書館オリエンテーションを効果的に行う。 	<p>B</p> <p>B</p> <p>A</p> <p>B</p> <p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> 相互授業見学は概ね順調に実施されている。引き続き学期1回以上の実施を促していく。生徒による授業評価を1回実施した。 臨時休業により授業が減少する中で課題となる時間もあった。日課の調整により課題を減らすと共に授業時間の確保に努める。 行事の中止はあったものの、運営は円滑に行うことができた。 蔵書の増加に努めたが、既にある蔵書の内容の見直し、適切な廃棄等を行いよりよい構築に努める必要がある。図書館の活用方法の指導と図書館サービスの広報にも努める。 関係機関と連携し、生徒、教職員に対して豊富な資料提供、オリエンテーション等で授業に携わり支援を行った。さらなる充実を図る。 	<p>A</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>B</p> <p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> 相互授業見学と2回の授業アンケートを計画通りに実施した。ICT活用も大きく前進し学習指導の充実が図られた。 臨時休業により授業時間が減数した。行事変更の対応や日課の調整を速やかに行い、授業時間を最大限確保した。 新たな様式に対応しながら、行事を円滑に運営した。 蔵書の増加とともに、蔵書の整理と内容の見直しに努めた。活用法の指導に関しては図書館だけではなく、授業担当者より連携して充実させていく。 分散登校等により、授業における図書館利用の回数は減少したが、引き続き関係機関と連携して対応し、変わらぬ支援を行うことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 臨時休業等の非常時に登校できない生徒に対しても円滑に学習指導を継続するため、ICTの活用や事前の教材準備を促す。 大型連休や月曜日の祝日に留意し、時間割の編成には工夫が必要である。 学校行事は、体験的な活動によって生徒の連帯感を深めることができる機会であると捉え、感染症対策を行った上で、可能な限り実施できるように努める。 今後の蔵書構築については、教科と連携し、授業計画と照らし合わせながら計画的に進めていく必要がある。 新型コロナウイルス感染症の感染拡大が続く中においても、生徒が学習で資料を利用しやすく読書活動が充実するように、さらなる環境整備に努めていく必要がある。
総務部	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染防止対策をしながら前後期入試ともに無事に終えることができた。 校内における入試事務作業については概ね円滑に進めることができたが、細かな部分で改善の余地が見られた。 新型コロナウイルスの影響により、各行事が中止となり活動ができなかった。 修繕箇所への対応が比較的速やかに行えた。 古い校舎であっても掃除が隅々まで行き届いている教室が多く見受けられた。 	<ul style="list-style-type: none"> 正確で円滑な入試事務作業の実施 学校と保護者との協力関係のさらなる構築 校舎の環境保全に努める 	<ul style="list-style-type: none"> 時代に沿った入試方法について考え、出願から入学までの流れにおいて受験生、中学校、本校にとってよりよい入試となるよう進めていく。 出願から新入生説明会までのスケジュールを入試事務スタッフ全員が周知し、他部署と連携するとともに各自が責任をもって役割を果たす。 世の中のコロナとのかかわりを見ながら、学校と保護者との協力関係のあり方を探る。 歴史ある校舎に生徒が愛着を持てるよう、日々の掃除を徹底させる。 	<p>()</p> <p>()</p> <p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> 入試実施時期ではないため評価できず。 悪天候やコロナの影響で例年予定されている学校行事が延期となり、松萌会活動ができなかった。 日々の清掃が行き届いていると思われるが、なお一層の環境美化に努めさせる。 	<p>B</p> <p>A</p> <p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> 短い期間の中で準備を進めてきたため、作業のなかで行き届かない点がいづか見受けられた。 コロナによりさまざまな学校行事が中止、延期になる中、行事の際には保護者の方の協力を得ることができた。 生徒の日々の清掃活動については比較的早めに行うことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 入試業務のスケジュールがタイトであり、前期入試の出願から後期入試の合格発表まで全体的なスケジュールの見直しが必要と思われる。 時代に沿った入試業務のあり方を検討し、前に進めていく必要があると思われる。 コロナの終息にはもうしばらく時間がかかると思われるが、その中でも学校と保護者との協力関係のあり方を探る。 床や天井、壁などを修繕し、生徒の学びの環境を整えていきたい。
進路指導部 (就職)	<ul style="list-style-type: none"> コロナワクチンを接種し、ウイルスの広がりを止めるにはまだまだ時間がかかりそうである。来年度も本年度と同様の内容を想定し、生徒一人ひとりをよく理解し、能力・適性に合った進路指導に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> いまだに経済状況は不安定であるが、生徒一人ひとりをよく理解し、能力・適性に合った進路指導に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 「進路総合評価」「進路適性検査」を参考にし、担任又は就職・教育支援担当者、カウンセラー及び部活動顧問、家庭、さらに関係機関との連携を密にしながら、個別面談を重ね、適切な進路指導に努める。また、今年度も就職先訪問は出来ないが電話などで状況を把握すると共に、本年度の採用計画を聞き出したい。また、企業との関係性は今まで培った信頼関係でカバーしたい。 	<p>C</p>	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍はしぶとく長引き進路指導にも影響を及ぼした。夏休みの合同企業説明会は中止となり、個別の見学会も再三の日程調整や、遠隔説明会となった。また、生徒への個別の進路指導も電話や遠隔での指導・指示は、やはり限界があり、もどかしい所がある。これから就職試験が始まるが、昨年度と比べ、環境は悪化しているため、コロナ禍における進路指導としての対策を考慮しなくてはならない状況にある。 	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> 今年度は企業見学会が行われる夏にコロナの影響を受けた。学校が閉鎖の中、WEBや郵送などを利用し、生徒個々の状況に合わせて対応できた。次年度も個々の要望に適した指導を心掛けた。 	<ul style="list-style-type: none"> アフターコロナの経済再開を予想していたが、インフレとヨーロッパの混乱は現在の経済・雇用状況を破壊しかねない。最悪10年前の不景気が舞い戻り、進路指導は混沌とすることが予想される。生徒の実力向上が条件となるので、対策を立てたい。
進路指導部 (進学)	<ul style="list-style-type: none"> オール普通科になったため今までも進学希望、特に大学に行きたいという生徒が増えてきた。1年次より進路に対する意識が持てるよう各種ガイダンス等を利用して生徒の意識を変えていきたい。特に授業に取り組む姿勢をもっと向上させる必要がある。教員間で問題共有をするなど、より密な連携を取っていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の希望進路合格を目指す。 各種ガイダンス等を通じて生徒の進路意識の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 多種多様な受験形態の研究を進め生徒とともに最善の受験方法での合格を目指す。 学年ごとのガイダンスの方法を考え、より興味関心が高まる方法を考えていく。BLENDを利用してオープンキャンパス等の案内を徹底して行う。 	<p>B</p> <p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> 例年より総合型選抜やAO入試での受験希望者の人数が増加傾向にあるが担任と連絡を取りながら早めの対応を行ってきている。これから入試シーズンに入っていくので臨機応変に生徒の希望進路決定の実現に対応していきたい。 今年はコロナ禍のため企画していたガイダンスが中止になった。その代わりに進路講話の回数を増やすなどして生徒への情報提供の場を確保していく。また、今年度も昨年度に引き続きBLENDで進学情報の連絡を徹底して伝えている。今後も継続していきたい。 	<p>B</p> <p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> 総合型選抜、AO入試等多種多様な入試のスタイルになってきているが担任・指導部のスタッフを中心に対応することが出来た。例年より一般受験にチャレンジする生徒が増えてきていてその対策に概ね対応出来た。 進路ガイダンスが出来なかったが、BLENDを通して情報発信ができた。また、オンラインでのオープンキャンパス等への参加も増え、生徒にとってはより情報が得られやすい状況になってきている。 	<ul style="list-style-type: none"> 一般受験にチャレンジする生徒への対応を今まで以上に力を入れて取り組んでいく必要がある。 今まで以上にオンラインでのオープンキャンパス等への参加を勧め、校内ガイダンスだけでなく自分から進路に対して調べていく力を養っていく必要がある。

学年分掌	令和2年度末の状況	令和3年度の目標	具体的方策	中間評価	中間評価に対する改善点	最終評価	目標の達成状況	次年度引継事項・改善策など
生徒指導部	<ul style="list-style-type: none"> 概ね良好ではあったが、SNSのトラブルが多く発生した。コロナ感染症予防対策として講演会を開催できなかったことあり、今年度は開催方法も考慮しながら節度のある通信機器の利用方法を学ぶ機会を作りたい。 登下校時の自動車での送迎を禁止しているが、守っていない生徒が目立った。近隣の方に迷惑をかける事態となっているので継続して立ち番指導が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣を身につけさせる。 生徒が安心して通うことができるよう指導に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 新入生は、オリエンテーションを通して学校生活に早く慣れさせる。 挨拶の徹底を全校集会やルームなどで呼びかけるとともに、通学指導などで教員からも積極的に声をかけを行う。 服装規定の遵守のため服装指導を徹底する。 社会のルールやマナーを理解し守るよう指導する。(講演会等も含む)・薬物乱用・SNS 他 登下校中に事故や被害に遭わないよう安全指導を徹底する。(各ルーム、立ち番指導等) いじめを許さず、見逃さない。生徒の言動に変わった様子はないか注意する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 目標に対して概ね良好であったが、服装の乱れなど少数見受けられた。全教員が温度差なく指導の継続を行う。 例年開催予定の講演会がコロナ感染防止対策の為開催できていない現状であり、各クラスでの指導を今まで以上に重視する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 部活動生を中心に挨拶ができる生徒が増えたように感じる。服装に関しては、1年間を通してネクタイを忘れる生徒が目立った。 伯耆大山駅の利用マナーや列車内での態度について注意を受けることが何度かあった。公共の施設の利用などを含め規範意識を高めていきたい。 交通安全については、自転車の併進、走行中のスマホ使用など危険運転があった。大きな事故にも繋がる恐れもあり今後とも指導が必要。 いじめに関しては、普段より担任を中心に生徒の状況を把握して、概ね適切に指導・対応ができていた。 	<ul style="list-style-type: none"> 概ね学校生活は落ち着いているが、挨拶をもっと積極的にできるように継続的な指導が必要。また、近年SNSの利用についての問題行動が増えてきている。インターネットの利用に関する教室を積極的に導入して行きたい。また、公共施設でのマナーをはじめ、校外での様子についても校外パトロールやルームでの指導を通して身に付けさせる。 登下校時に本校生徒も不審者による声かけなどの被害があった。学校へ寄せられる被害者情報の提供を行い、被害に遭うことのないよう注意喚起を呼びかける。また、交通ルール遵守の指導を継続して行う。特に立ち番指導を強化していきたい。
学年分掌	令和2年度末の状況	令和3年度の目標	具体的方策	中間評価	中間評価に対する改善点	最終評価	目標の達成状況	次年度引継事項・改善策など
人権教育推進部	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症は未だ終息の目途が立たない。感染防止策の徹底とともに、感染症の問題は、誰にとっても考え続けなければならない人権問題である。一人ひとりが自分に関わることで引き継ぎ必要である。 性の多様性をテーマとして、新しい課題に本格的に取り組んだ。教職員研修、公開授業、日々の活動を通じ、体験と学習を積み重ねた。 人権ホームルームでは、毎時間、身に付けさせたい知識・技能・態度のさらなる明確化に努めたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症に対する対応を、人権への配慮の観点から考える。 多様性を尊重すべき中、新たな人権課題に取り組んでいく。 人権ホームルームにおいて、生徒が身に付けたい知識・技能・態度を明らかにし、日常、不適切な言葉をゆるさない技能・態度につなげていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 文科省、県教育委員会人権教育課など行政機関の通知・指針をふまえ、また、新聞各社の報道を社会科学的に分析し、本推進部の対応を検討し、教職員、生徒、保護者への啓発に努めていく。 いじめ問題、性の多様性に関する問題、外国籍の方に関する人権問題、ネット問題など特に人権ホームルームを通じ、学習を進めていく。 年間推進計画、学年年間計画をふまえ、毎時間、生徒に身に付けさせたい知識・技能・態度を明確化する。言葉遣いアンケート結果をふまえ、不適切な言葉をゆるさない姿勢を養う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染者に対する誹謗・中傷防止のため、昨年度から特に県教育委員会の指針をふまえ、校内周知・人権ホームルーム資料の作成・活用に努めてきた。本年度、生徒間での問題は生じていない。引き続きワクチン接種をめぐる問題など注視していきたい。 1年生いじめ問題、2年生部落問題、3年就職差別問題を中心に、新しい資料を提示するなど工夫に努めた。生徒一人ひとりの学習意欲を高めることができた。 各学年、人権ホームルームでは毎時間、生徒に身に付けさせたい知識・技能・態度を明らかにしながら、学習を進めた。3年生公開授業では、そのような点で成果と課題を明らかにできた。生徒の不適切な言葉の防止に努めた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 本年度、生徒間で新型コロナウイルス感染症に関わる問題は生じていない。感染された人、濃厚接触の人、ワクチンを接種した人、接種していない人、それぞれの多様な立場をふまえ、尊重しようとして教職員、生徒ともに努めている。 アイヌ差別問題、いじめ問題、外国籍に関する人権問題などの新たな課題、地域の人権課題に意欲的に取り組む方をお招きしての講演会を通じ、生徒の学習意欲を高めることができた。 人権ホームルームでは、生徒が身に付けたい知識・技能・態度を明らかにしながら、学習を進めた。3年生公開授業では成果と課題まで明らかにできた。言葉遣いアンケートを通じ、不適切な言葉の把握とその防止に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度同様、新型コロナウイルス感染症は未だ終息の目途が立たない。感染防止策の徹底とともに、人権的配慮の観点から、コロナをめぐる新たな資料の提示・人権啓発に向かいたい。 新たな課題に取り組み、学習効果を高めることができた一方、分散登校の影響などで、取り組めていない課題もある。次年度すみやかに対応したい。 人権ホームルームでは、主題設定の理由・本時の目標とともに「まとめ」も共通にしていきたい。不適切な言葉の把握は成果をあげているが、その防止のための創意工夫にさらに努めていきたい。
学年分掌	令和2年度末の状況	令和3年度の目標	具体的方策	中間評価	中間評価に対する改善点	最終評価	目標の達成状況	次年度引継事項・改善策など
教育相談・支援	<ul style="list-style-type: none"> 個別の支援計画の作成は遅れたが、支援会議等で活用していくことができた。 担任、副担任、教科担当など多くの先生方とチーム連携をはかっていたことができた。 特別支援学校や、市町村の福祉課との連携を図っていくことができた。 SC、SSWだけでなく校外の機関との連携について認知されてきた。 	<ul style="list-style-type: none"> 個別の支援計画の活用推進 校内連携の強化 他機関との連携作り 学校全体として支援理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> 個別の支援計画について作成では手順を担任と再確認し、支援会議等で情報を共有するなどして活用していく。 教員間で情報交換を行い、早期の対応に努める。 他校や医療機関、就労支援機関等と連携し、進路決定等多方面から支援をしていく。 研修会・講演会等の参加を積極的に促す。 SC・SSW・サポステ連携を通じて学校全体としての支援理解・学びを深めていく。 	C	<ul style="list-style-type: none"> 三者懇談が休校のため変則開催となり、保護者確認が例年と違う形となった。継続して保護者との連携に努めていく。 学年主任や担任との情報交換のほか、BLENDを活用した情報収集に努める。 他機関との連携について、問題解決型が多かった。予防的な活用を増やし、支援につなげていきたい。 オンライン研修などもあるので、積極的に紹介していく。 月に1回のペースで校内連携会議を行うことができた。より充実した会議としていく。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 休校その他で保護者確認が例年と異なり、多少の遅れはあったが、その他は、例年通り活用することができた。 担任・学年主任・部活動顧問などと情報交換を行い、連携を図ることができた。 市町村の福祉課や医療機関と連携し、支援につなげた。 オンラインの研修が増え、講演をきく機会がむしろ増えた。 SC・SSW会議を月1回行い、校内関係者を交えて生徒の諸問題について充実した話し合いができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 「合理的配慮の実施について」のマニュアルを作成する。 情報交換を積極的に行い、教員間で正確な共有につなげる。 今後も市町村や医療等と連携を深めていく。 全職員への紹介を増やしていく。 相談室の活用に向けて情報発信を行う。
学年分掌	令和2年度末の状況	令和3年度の目標	具体的方策	中間評価	中間評価に対する改善点	最終評価	目標の達成状況	次年度引継事項・改善策など
広報	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症の影響を受け、学校説明会等の参加者数は減少したが、感染対策を取りながらオープンスクール・入試説明会を適切に実施・運営することができた。 通年、Webページ・SNSによる情報発信を迅速に行うことができ、閲覧数・登録者数を確保することができた。それにより、開かれた学校づくりの一端を担うことができた。また、学校PR動画やプレゼンテーションの刷新により、学校ブランディングのきっかけを作ることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> オープンスクール・学校見学会・入試説明会の充実と参加者の確保 開かれた学校づくりの推進と学校ブランディング 	<ul style="list-style-type: none"> 中学生・保護者・中学校への的確な情報発信 オープンスクール等の実施内容の精査、円滑な運営 広報活動の充実 Webの更新・管理運営 SNS等による情報発信 	A	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナ感染症拡大によるオープンスクールに関する連絡等、各方面への情報発信を迅速かつ適切に行うことができた。参加申込者数を確保することができた。 感染対策を取りながらオープンスクールを適切に実施・運営することができた。 Webページ・SNSによる情報発信を迅速に行うことができた。閲覧数・登録者数を確保することができた。それにより、開かれた学校づくりの一端を担うことができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 感染対策を取りながらオープンスクール・入試説明会を適切に実施・運営することができた。各部署活動体験を企画・情報発信し、適切に実施することができた。 通年、Webページ・SNSによる情報発信を迅速に行うことができ、閲覧数・登録者数を確保することができた。それにより、開かれた学校づくりの一端を担うことができた。また、学校PR動画や学校案内パンフレットの制作を通してイメージを向上させる有効なブランディングを図ることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> より効果的なオープンスクール・説明会等の実施内容・運営方法を検討し、更なる入学志願者増加につなげる。 これまで行ってきた広報活動の効果を検査し、一層の充実を図ると共に、多様な媒体を用いた広報活動を提案する。

学年分掌	令和2年度末の状況	令和3年度の目標	具体的方策	中間評価	中間評価に対する改善点	最終評価	目標の達成状況	次年度引継事項・改善策など
生徒会	<ul style="list-style-type: none"> 9月に学校祭、及び11月にスポーツ祭を実施することができた。執行部、教職員、生徒をはじめ多くの協力のもとで、思い出に残る行事にすることができた。 生徒が主体となって行事の運営等を積極的に議論することができた。今後も生徒会全員で学校生活を充実したものにするために、活動を継続する。 他分掌と連携を図り活動することができた。引き続き学校を盛り上げていけるように、連携を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事の充実 生徒会活動の充実 他分掌との連携 	<ul style="list-style-type: none"> 7月のスポーツ祭および10月の学校祭が充実したものになるように、早めに計画をする。 各クラスの中央委員との連携を図る。 学校生活をより充実したものにするために、定期的に部会を開き、議論する。 放課後の清掃点検や園芸活動を行う。 ボランティア活動の呼びかけを行い、生徒の参加を促す。 『松蔭TIMES』の発行を行う。 他分掌と、お互いの要請等により活動を計画・実施する。 	() B A	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナの影響で延期となったため評価せず。 毎週放課後に議題を持ち寄り、積極的に議論することができた。今後は部員の参加率を更にあげていきたい。 ボランティア活動について、実施予定のものについては可能な限り案内し、多くの生徒が参加している。 他分掌と連携を図り活動することができた。引き続き学校を盛り上げていけるように、積極的に関わっていききたい。 	A B A	<ul style="list-style-type: none"> 10月に学校祭、及び11月にスポーツ祭を実施することができた。執行部、教職員、生徒をはじめ多くの協力のもとで、思い出に残る行事にすることができた。 生徒が主体となって行事の運営等を積極的に議論することができた。今後も生徒会全員で学校生活を充実したものにするために、活動を続けていきたい。 他分掌と連携を図り活動することができた。引き続き学校を盛り上げていけるように、連携を図っていききたい。 	<ul style="list-style-type: none"> スポーツ祭で実施した感染症対策をさらに検討し、充実させたい。また、今年度の課題について、新生徒会執行部に引継ぎを行い、改善を図る。 来年度は学校行事日程に大幅な変更がある為、早めに計画を立てて行動する。
一年部		<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣の確立 学習習慣の確立 家庭との連携 人権意識の育成 	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶と正しい服装の定着を図る。 早寝・早起き、食事、健康面の管理に努め遅刻・欠席をなくすよう指導する。 授業に集中して取り組み、日頃から計画的に家庭学習を行うよう指導する。 保護者へBLENDの活用を促し、連絡を密にする。 学校からの配布物や家庭からの回答を必ず提出するよう指導する。 状況に応じて保護者に連絡を取り、学校や家庭の様子について情報交換を行う。 学校行事や学級活動を通し、互いを思いやり尊重する心を育む。 	B B B B	<ul style="list-style-type: none"> 登下校中のマスク着用と交通ルールの遵守ができるように声かけを行う。 全体的に見ると遅刻や欠席は多くないが、今後も個別に指導を行う必要がある。 授業に集中し、提出物は期限を守るように継続して指導する。 保護者のBLEND登録や連絡文章の確認について引き続き呼びかけをしていく。 今後もきめ細かに指導ができるように保護者との連携を密にしていく。 互いを思いやる気持ちが持てるように、様々な機会を活用して仲間作りを促す。 	A B A B	<ul style="list-style-type: none"> 徐々にではあるが、マスク着用や交通ルールを守るようになってきている。 学校生活に慣れて落ちついていくにつれて減少傾向にある。 授業態度は概ね良好であるが、積極的に家庭学習をしている生徒を増やしていきたい。 BLENDでの欠席連絡は概ねできており、欠席理由の把握がしやすくなってきている。 担任・副担任を中心にきめ細かく保護者と連携が取れていた。 学級活動を通してクラスとしてまとまってきた。軽率な発言がある時は、適宜指導をしていた。 	<ul style="list-style-type: none"> 上級生として率先して挨拶できるように指導し、マスクの着用の徹底をしていく。 遅刻・欠席をした場合に家庭と密接に連携する。 日頃の家庭学習の大切さを指導すると共に、適時確認をしていく。 BLENDの活用機会を更に増やし、連絡が確実に届くようにしていく。 さらに相談しやすい環境を整えていくように努力する。 お互いを認め合い成長できるような環境作りをしていく。
二年部	<ul style="list-style-type: none"> 規則正しい生活習慣の声掛けを根気強く継続していく。 早めの登校や朝読書の時間の有効活用などが継続できるよう、声掛けを行う。 集中力が続かない生徒や課題提出が滞ってしまう生徒に対し、教科担当と協力して指導を行う。 保護者、家庭との連携に努めている。 相手の気持ちや自分の言動が周囲に与える影響をよく考えて発言・行動するように、折に触れ指導を行う必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣の確立 主体的に学習に取り組む姿勢の確立 家庭との連携 人権意識の育成 	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶と正しい服装の定着を図る。 自主自立に努め、充実した高校生活を送るよう指導する。 自らの興味関心や特性、進路について考え、授業や家庭学習に目的を持って取り組むよう指導する。 保護者へBLENDの登録、活用を促す。 家庭との情報交換をこまめに行い、諸問題の早期発見と迅速な対応に努める。 様々な個性や価値観があることを理解し、互いを尊重する姿勢を育む。 学校行事や学級活動を通し、周囲を思いやる気持ちや協調性を育む。 	B B A B	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶やマスクの着用、正しい服装を呼びかけ、守れていない場合はその場で直すよう指導する。 早めの登校や、落ち着いた学校生活に臨む準備等の声掛けを継続して行う。 一部ではあるが授業に集中できない生徒が見受けられる。教科担当と連携して根気強く指導をしていく。 保護者のBLEND登録は完了しているため、有効に活用していく。 各家庭とのこまめな情報交換、連携を継続していく。 相手のことを考えた行動・発言を心掛け、トラブルをなくしていくよう指導を行う。 新しいクラスに馴染めていない生徒や孤立しがちな生徒に目を配り、声掛けをしていく。 	B B A B	<ul style="list-style-type: none"> マスクの着用は定着した。分散登校や臨時休業が続く中、気の緩みから服装や頭髪の乱れが見られる生徒も一部あり、繰り返し指導を行った。 全体的に比較的余裕を持って登校し、落ち着いた雰囲気やHRや授業に向かうことができていく。 検定試験や課題提出、模試への取り組みを通して、目的意識を持って学習する姿が見られるようになった。 BLENDを活用し、クラスごと、または学年全体の連絡の周知徹底に務めた。 生徒の状況や変化等について家庭との連絡をこまめに行い、教育支援やその他関係部署と連携をとりながら適切に対応できた。 小さな行き違いやトラブルはあるが、学年全体としてはかなり落ち着いた状態にある。 それぞれのクラスで良好な友人関係を築いている様子が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 正しい服装、頭髪の徹底を根気強く呼びかけるとともに、個々に向き合った指導を継続する。 進路決定に向け、早い時期から明確な目標設定を促すような環境作りと指導を行う。 引き続きBLENDの有効活用を実践していく。 生活面の指導のみならず、進路希望に関しても生徒と家庭、学校の間で意思の疎通と連携を深めていく。 授業のグループワークやHR、学校行事を通して、よりよい仲間作りや人間関係を構築していくよう促す。
三年部	<ul style="list-style-type: none"> 【基本的な生活習慣・学習態度について】概ね規則正しく、かつ落ち着いた日々の生活を送ることが出来ている。さらにレベルの高い質での学習に取り組めるよう促していくことが必要となる。 【保護者との連携について】各種連絡事項をペーパー配布とClassiを効果的に使いながら情報提供をしていくことが出来た。面談や電話連絡等も今一層充実させていく必要がある。 【各クラスの状況】各クラスともクラスメイトと互いに支えあいながら生活を送る様子も見られるようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣の定着 学習習慣の確立と進路指導の充実 保護者との連携 人権意識を育てる 	<ul style="list-style-type: none"> あいさつや服装、時間を守ることを徹底させる。また最高学年としての自覚を持ち、責任を持った行動で生活を送るよう指導する。朝読書も積極的に促し、落ち着いた一日の生活を始めさせたい。 主体的学習者の育成のため、各授業や総合的な探究の時間での工夫を考えたい。進路決定に向け、適切な情報提供を行う。 保護者との連携を深め、学校での状況や家庭での様子について共通理解を図る。 学校行事やクラスでの活動、部活動を通して他者への理解を深め、人を思いやる心を育む。 	B B A B	<ul style="list-style-type: none"> 概ね良い習慣が定着しているが、今後最高学年としてリーダーシップを発揮し、学校全体を引っ張っていくような存在になるよう導いていきたい。 進路決定に向けての活動が活発となる2学期以降、これまで以上に丁寧な情報提供ときめ細かい指導を心がけたい。 引き続きしっかりと連携を図るとともに、保護者の方からも相談しやすい雰囲気づくりを心掛けたい。 人を思いやる心を大事にする人として社会に羽ばたけるように、様々な学校生活の中で、声掛けをしていきたい。 	A B A A	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍で学校行事や部活動に制限がかかる中、リーダーシップを発揮する存在に成長できるよう導くことができた。 担任を中心に学年部一体となっており、生徒一人一人に寄り添うことができた。また、進路決定に必要な情報は、進路指導部と連携を密にし適宜提供できた。 進路決定時を中心に保護者との連携を密にすることができた。保護者からの相談も多く、生徒、保護者、学校が良好な関係性を保つことができた。 社会人として必要な人権意識を、各担任の粘り強い指導で身に付けさせることができた。社会に真に役立つ人として活躍することを切に願う。 	